

第 4 次丹波市男女共同参画計画（案）に対するパブリックコメントの結果について（案）

パブリックコメントの実施状況

(1) 意見の募集期間

令和 4 年 12 月 21 日（水）～令和 5 年 1 月 22 日（日）

(2) 意見の応募者数及び件数

応募者 3 名、件数 11 件（うち、1 名分 5 件公表なし。）

No.	該当項目 (頁)	意見・提案の概要	市の考え方
1	第 2 章 (30)	基本目標 1 の①の 2 つ目に書いていることで、女性だけでなく社会の中でみんなが住みやすくなるために考える必要があるから大切だと思う。	ご意見ありがとうございます。 男女共同参画は、女性だけの課題ではなく、男女が共に進めていくものです。性別にかかわらず、みんなが生活しやすい社会づくりをめざします。
2	第 3 章 (39～40)	基本法 14 条によると、計画策定は市町村においては努力義務であるにもかかわらず、丹波市では男女共同参画計画を策定してくださっていること、ありがたく思います。こうして、パブリックコメントを募集し、市民の意見を反映してくださることにも感謝しています。私は、丹波市民の誰もが、早急に性別によるしがらみから脱却し、個性と能力を発揮しながら安心して暮らせるようになってほしいと願う一市民です。「新しい何か」を打ち出し、歯車を回し、本当の意味での男女共同参画社会「丹波市」を願っています。 以下、3 点について書きます。	ご意見ありがとうございます。 市民一人ひとりが性別にかかわらず、個性と持てる力を発揮できる男女共同参画社会づくりに向けて、市民、事業者、団体等の皆さんとの協働により、様々な取組を進めていきます。

No.	該当項目 (頁)	意見・提案の概要	市の考え方
2	第3章 (39～40)	■基本目標1 基本方針(1)推進項目②「市民主体の啓発活動の推進」について 性別役割分担意識は、私たちが思っている以上に私たちの中に根強く入り込んでいることと、それが個性や能力を発揮できない「生きづらさ」につながっていることを、まず市民一人ひとりが知る必要があります。この「生きづらさ」は、性別や年齢に関係がありません。ぜひ、男女共同参画社会の実現が、あらゆる社会問題の解決につながっていくことや、市民がしあわせに生きられることだということを、様々な手段を駆使して市民に知らせてほしいと感じます。P.10の②のグラフの考察にも、「女性の流入人口を増やす必要がある」とあり、待ったなしの状態。早急の啓発が必要です。 ■基本目標2 基本方針(1)推進項目②「ワーク・ライフ・バランスの推進」について 仕事と家庭生活が充実することによって相乗効果を生み出すことが大切です。何よりの課題は長時間労働。定時に仕事が終わらない人がワークシェアできる仕組みが作れないものか…それと並行して進めなければならないのは「定時に帰る」という意識。今は、長時間労働と疲労がマイナスのリンクで回り、効率も悪くなっています。まず市役所が理想の働き方をして、いきいきと生きる人のモデルとなしてほしい。	1点目の「市民主体の啓発活動の推進」について、本計画においては、固定的な性別役割分担意識を解消することを基本目標の第一に掲げています。男女共同参画センターが中心となり市民の皆様にご理解いただけるように、様々な媒体を活用した広報や啓発活動に取り組みます。また、市民の皆さまの啓発活動を支援するための資料提供や市役所出前講座等も進めていきます。 2点目の「市役所が理想の働き方をして、いきいきと生きる人のモデルとなしてほしい」ということについて、ワーク・ライフ・バランスの推進には、男性職員の育児休業・育児参加休暇の取得促進など、多様な取組を進めていく必要がありますが、市役所においても何よりの課題としては、長時間勤務が当たり前の職場風土の改善だと考えております。 市役所では、管理職を対象とした働き方改革研修を実施し、マネジメント力の向上を図るとともに、一斉定時退庁日（ノー残業デー）を設定し、長期間勤務の削減に取り組んでおりますが、まだまだ徹底されているとは言えない状況です。女性活躍の推進と合わせ、誰もが活躍しやすい職場づくりや働くことへの満足感を確保するためには、市役所自らが男女共同参画のモデル的な職場となるよう率先して行動することが重要であると考えており、そのために引き続き、ノー残業デーの取組を徹底する等、ワーク・ライフ・バランスの実現に努めてまいります。

No.	該当項目 (頁)	意見・提案の概要	市の考え方
2	第3章 (39～40)	そこから、学校や企業へと啓発を広げてほしい。 ■基本目標2 基本方針(3)推進項目②「男性の家事・育児・介護への参画促進」について 市民一人ひとりが、性別にかかわらず、家事・育児・介護を「自分ごと」と考えスキルを身に着けることや、相手の立場になって考える、人権意識が必要だ。幼いころから家の仕事をしたり、優しい気持ちで過ごしたりできる環境づくりが大切だと感じる。 こうして書かせていただくと、色んなことががんじがらめになって、うまくほどこけなくなっている社会の様子がわかってきます。誰もが生きにくい社会になってしまっている。みんなで知恵を出し合って、しあわせな町「丹波市」をつくっていきたい。	また、市では、市役所職員への啓発はもちろんのこと、学校や事業所など市内で働く人々が、それぞれの職場において、ワーク・ライフ・バランスが実現し、いきいきと生きることができるよう啓発を進めていきます。 3点目の「男性の家事・育児・介護への参画促進」について、男女ともに「家事・育児・介護」を自分のこととして考え行動できること、家庭の中で話し合いができることが大切だと考えます。根強く残る固定的な性別役割分担意識を解消し、男性の家事・育児・介護への参画を促すための取り組みを進めていきます。 男女共同参画社会づくりのためには、多様な人が意見を語り合う場があることが大事だと考えます。男女共同参画センターでは、しあわせな町「丹波市」に向けて、みんなで知恵を出し合える機会を作っていきたいと考えています。
3	第4章 (42)	推進項目①「学校における男女平等教育の推進」の施策・取組にある「道徳教育、人権教育の充実」の内容について 小学校では男女平等についての授業を何回か受けたが、中学、高校になるにつれて機会が少なくなったように思う。授業を受けても実際の自分たちの生活と結びつけて考え、行動することができていないと感じるため、学校同士が連携して長期的に教育をする必要がある。	ご意見ありがとうございます。 市では、兵庫県教育基本計画に基づき、全ての小・中学校において、児童生徒の道徳性を養うため、それぞれの発達段階に応じた取組を進めています。また、人権教育においても、多様な価値観やあらゆる人権にかかわる課題の解決に向け、総合的に取り組んでいます。特別支援学校、高等学校においても、各校種に応じて、取組をされていると認識しております。

No.	該当項目 (頁)	意見・提案の概要	市の考え方
			今後は、児童生徒のみなさんが、授業だけでなく、自分自身の日常生活と結び付けて考える機会を大切するなど、男女共同参画社会につながる取組を推進していきたいと考えています。
4	第4章 (45)・(49)	推進項目②「ワーク・ライフ・バランスの推進」の施策・取組にある「休暇制度の取得促進」や「事業所等の取組」にある休暇が取得しやすい職場環境に加えて、従業員、個人個人に現状の育児休業の希望を聞く機会を作る必要もあると思う。	ご意見ありがとうございます。 育児・介護休業法が改正され、①育児休業を取得しやすい雇用環境整備、②妊娠・出産の申出をした労働者に対する個別の周知・意向確認の措置が事業主に義務付けられました。 しかしながら、妊娠・出産の申出や育児休業の申出をすることに、まだまだ不安を感じる方が多いのも事実です。 市としては、様々な休暇が取得しやすい職場環境づくりの創出を支援するとともに、制度の広報に努めます。
5	第4章 (55)	数値目標No.13 に市役所男性職員の育児休業取得率の目標値が定めてあるが、実際にどれくらいの方が男性の育児休業を必要としているのか、詳しく調査する必要があると思う。	ご意見ありがとうございます。 男性職員の育児休業率の目標を定めておりますのは、男性の育児休業取得を促進することで、取得を望む男性の仕事と生活の両立の希望をかなえるとともに、男女問わずワーク・ライフ・バランスのとれた働き方ができる職場環境を実現するためです。 男性が育児休業中に主体的に育児・家事に関わり、その後の育児・家事分担につなげることが、女性の雇用継続や夫婦が希望する数の子を持つことに資すると考えられ、夫婦どちらか一方に育児・家事の負担が偏れば、他方の雇用継続やキャリア形成が難しくなり

No.	該当項目 (頁)	意見・提案の概要	市の考え方
			ます。女性の活躍を推進するには、女性のみならず男性の働き方も見直し、男性も仕事と生活を両立して働くことができるようにすることが必要だと考えております。 男性の育児休業を必要としている家庭がどれくらいあるかの調査については、「育児のための休暇・休業を希望していたが育児休業を取得できなかった」など、休業取得の希望が十分かなっていない現状を把握するためには効果があると思いますが、最終的に目指す数値目標は 100%であり、子どもをもつ全ての男性が当たり前のよう育児休業を取得することができる環境整備に取り組みます。
6	全体	パブコメミーティングに参加し、家事分担も男女の問題なのだと気づかされた。自分だけでなく身近に男女平等について考える機会がたくさんあることを気づいていない人はいると思うから、市民への啓発や講座から家庭で話し合えるきっかけをつくるのが大切だと思う。	ご意見ありがとうございます。 私たちの日常生活では「男だから」「女だから」という固定的な性別役割分担意識や社会慣習により、無意識のうちに役割が決まっていることがあります。家庭で話し合える機会は大事なことで考えますので、気づきやきっかけづくりになるような講座等を開催し、啓発を行います。